



平成22年7月2日

## 一酸化炭素による中毒事故の発生状況について

～一酸化炭素は身近な有毒ガス～

先般、愛知県でキャンピングカーの中で練炭コンロを使用し焼き肉をしていたところ、一酸化炭素中毒により、親子2名が死亡するという事故が発生しました。

東京消防庁管内では、平成17年1月から平成21年12月までの間に、住宅等において一酸化炭素中毒により106名が救急搬送されています。

今回発生した事故のように、狭い場所で換気が不十分の状況でコンロや七輪等を使用し調理した場合等は、一酸化炭素が発生し、中毒事故となる危険性があります。特に、木炭や練炭などは一酸化炭素が発生しやすく、密閉空間での使用は極めて危険です。

当庁では、コンロなどを用いて料理する際には、十分に換気するとともに、火気設備や換気扇を定期的に点検・清掃するよう呼びかけています。



この事故は、「一酸化炭素は無色無臭であるため気がつかない」、「気がついた時にはもう体が動かない」、「複数名の死傷者が発生する事故になりやすい」という特徴があります！

### ▶ 発生件数は大幅に増加！

平成17年、平成18年と比較すると、平成20年、平成21年は6倍以上の件数となっており、大幅に増加している。

### ▶ 事故1件あたり1.74人の死傷者が発生！

一酸化炭素は、無色無臭であるため、発生しているかどうかがわかりにくく、気がついた時には複数の死傷者が発生することが多い。

### ▶ 原因の8割以上は「換気不足」！

今回のキャンピングカーでの事故と同様に、換気が不十分のまま調理や暖をとっている際に発生している事例が8割以上を占めている。

※ 詳細は、別紙資料を参照してください。

問い合わせ先

東京消防庁 (代) 電話 3212-2111  
生活安全課生活安全係 内線 4206  
広報課報道係 内線 2345～2349

## 一酸化炭素中毒に係る救急事故の発生状況

平成17年から平成21年の5年間に、東京消防庁管内（東京都のうち東久留米市※、稲城市、島しょ地区を除く地域）の住宅で発生した一酸化炭素中毒に係る救急事故の状況については、次のとおりである。

※東久留米市については、平成22年4月1日から東京消防庁管内となった。

### 1 発生件数の推移

年別の事故件数は、平成17年、18年と平成20年、21年を比較すると6倍以上となっている。

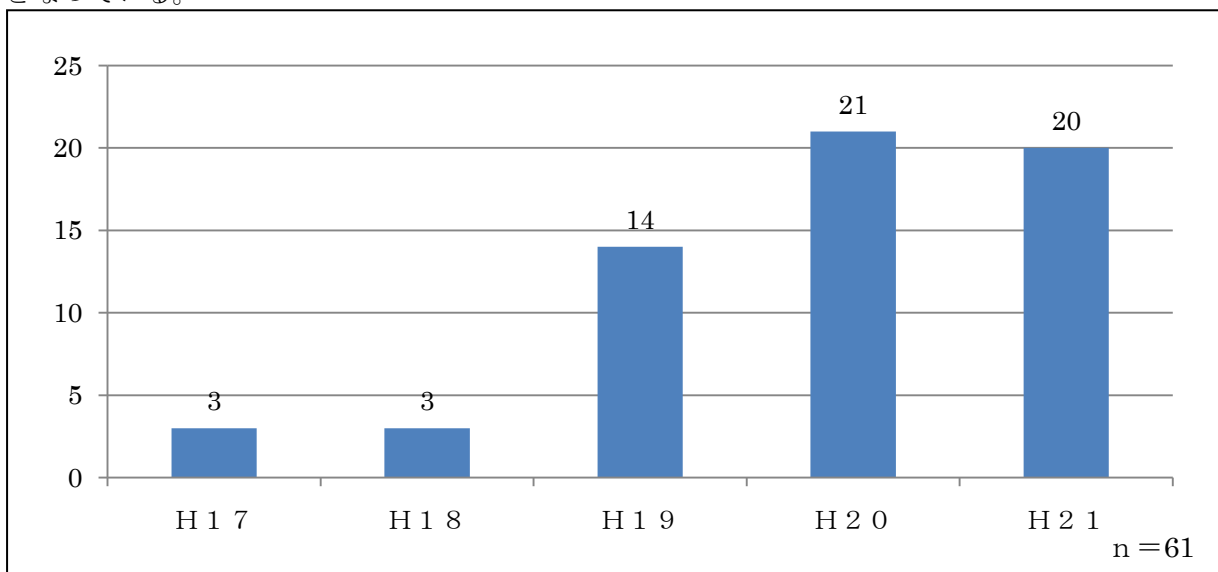


図1 年別の事故件数

### 2 発生場所別行動別の件数

発生場所は、住宅の居室が最も多く44件（72.1%）発生している。居室で発生した事故の行動状況を見ると、ガスファンヒーターや火鉢などで暖をとっていた際に多く発生している。そのほかの場所の行動状況を見ると、調理中に多く発生している。

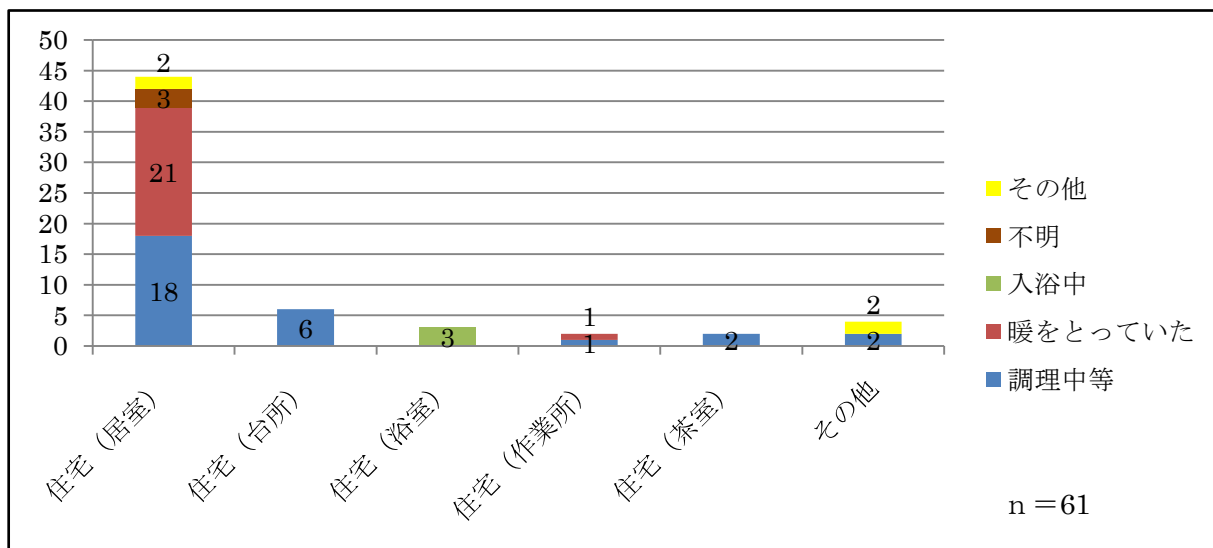


図2 発生場所別行動別の件数

### 3 一酸化炭素中毒事故に至った原因

事故に至った原因は、「換気不足」が50件（82.0%）を占めている。

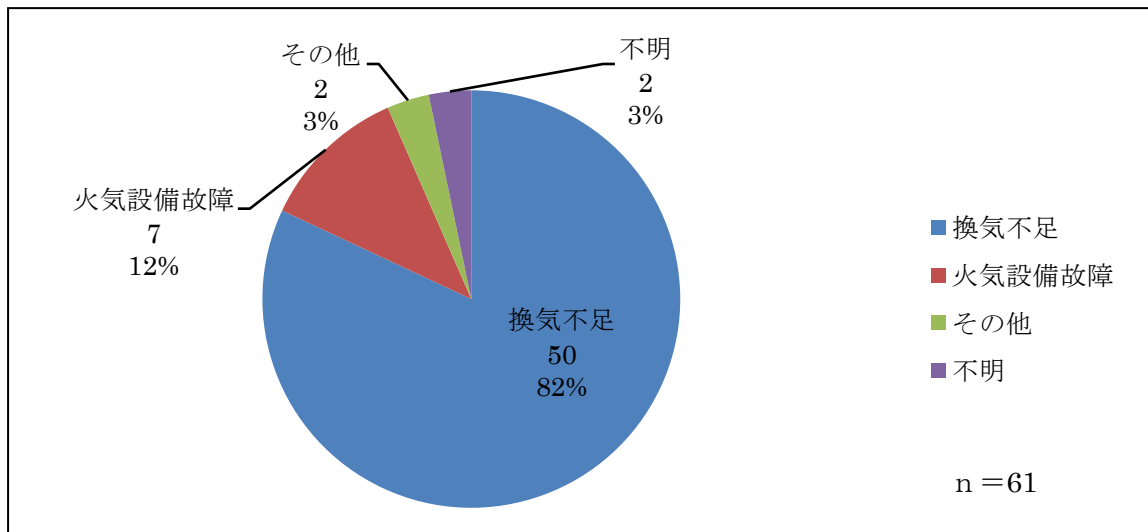


図3 事故に至った原因別の件数

### 4 死傷者発生状況

一酸化炭素中毒事故61件で106人の死傷者が発生しており、事故1件あたりの死傷者数は、1.74人と複数名発生する場合が多い。

表 原因別初診時程度別死傷者数

(単位:人)

発生原因	死亡	重篤	重症	中等症	軽症	計
換気不足	2	1	20	29	32	84
火気設備故障	0	2	2	5	6	15
その他	0	0	0	3	0	3
不明	0	0	0	0	4	4
計	2	3	22	37	42	106

- (凡例) ・重 篤 : 生命の危険が切迫しているもの  
 ・重 症 : 生命の危険があるもの  
 ・中等症 : 生命の危険はないが、入院の必要があるもの  
 ・軽 症 : 入院の必要がないもの

## 5 発生場所別の主な事例

発生場所	概要
居室	火鉢に木炭を入れて暖をとり、就寝前に灰をかけて消火したつもりでいたが、完全に消えておらず一酸化炭素が発生し、窓をすべて閉め切っていたため、家族4名（中等症4名）が中毒症状を起こしたものの。
台所	居住者が、夕食の煮物を準備するため、台所で練炭コンロを使用し、換気扇を「弱」にし細火の状態に放置していたところ、換気不足で一酸化炭素が発生し、6名（中等症2名、軽症4名）が中毒症状を起こしたものの。
浴室	居住者が入浴中、共同住宅パイプスペースに設置されているガス瞬間給湯器の排気ガスが給湯器上部に設置されている浴室用換気扇（作動していなかった。）から浴室内に逆流し中毒症状を起こしたものの。（中等症）
茶室	7名が、茶室で部屋を閉め切った状態で茶道教室を開いていたところ、囲炉裏内の木炭の不完全燃焼により一酸化炭素が発生し、全員（重症2名、中等症4名、軽症1名）が中毒症状を起こしたものの。
作業所	雨が降っていたため、作業所内を閉め切った状態で、七輪に木炭を入れ川で釣ってきた魚を焼いていたところ、一酸化炭素が発生し、中毒症状を起こしたものの。（重症）
その他	業者が、住宅の屋外に設置してあるガス風呂がまの定期点検のため、ガス風呂がま付近でCO濃度を測定していたところ、付近に滞留していた一酸化炭素を吸いこみ、2名（軽症2名）が中毒症状を起こしたものの。

## 6 事故防止のポイント

- (1) 一酸化炭素は、無色・無臭であることから気が付きにくいので、居室内等においてコンロや七輪等で調理をする場合などは、換気を十分に行う。
- (2) 火気設備や換気扇は、定期的に点検及び清掃をする。
- (3) 火気設備等を使用中に、少しでも体調に異変を感じたら、使用を中止するとともに、十分な換気を行う。
- (4) バーベキュー用のコンロなど屋外での使用が想定されている器具は、必ず屋外で使用する。
- (5) 安心のため一酸化炭素警報器を設置することも有効である。